

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	根 こ ぶ 病	根 朽 病	べ と 病	菌 核 病	黒 す す 病	黒 腐 病	軟 腐 病
スターナ水	31		14	2								◎
トップジンM水㊦	1		1	2					◎			
ベンレート水㊧	1		7	3					◎			
アフエットFL*1	7		1	3			◎		◎	◎		
パレード20FL*1	7		1	3					◎	◎		
			*f	1	☆					◎		
ケンジャFL*1	7		1	3					◎	◎		
スクレアFL	11		1	3					◎			
メジャーFL*1	11		1	3				◎	◎	◎		
ファンタジスタ顆水*1	11		3	3					◎	◎		
オラクル顆水	21		*c	1	☆	◎						
				2		◎						
オラクル粉	21		*c	2		◎						
ライメイFL	21		7	4				◎				
ランマンFL	21		3	4					◎			
			14	1		株						
			*e	1	☆	◎						
フロンサイドSC	29		*c	1		◎						
フロンサイド粉	29		*a	1		◎						
オリゼメート粒	P2		*b	1								◎
ネビジン粉	36		*a	1		◎						
ネビリュウ粉粒	36		*c	1		◎						
ダコニール1000FL	M5		*d	3				◎				
シグナムWDG*1	7・11		7	2				◎	◎	◎		

*1: 「はなやさい類」での登録

㊦: チオファネートメチル含有剤 ㊧: ベノミル含有剤 ㊦を使用した場合には同じ作での㊧は使用しないこと。その逆も同様(種子への処理および塗布処理を除く)。

*a: 播種又は定植前 *b: 定植時 *c: 定植前 *d: 出蕾前(但し収穫14日前まで)

*e: 定植前日～当日 *f: 育苗期後半～定植当日 株: 株元灌注

☆: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

カリフラワー（野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる）

薬剤名	作用機 構分 類 コ ド	人 使 用 時 期 （ 日 数 ）	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	ア	カ	コ	ア	ヨ	ハ	シ	オ	ウ	ネ	キ	コ	そ	
					ブ	ザ	ブ	オ	ハ	イ	ト	ス	ロ	イ	オ	ウ	ネ	キ	ス
		畜	毒	性	ラ	ミ	ラ	ナ	オ	マ	モ	イ	チ	タ	ワ	リ	シ	ノ	シ
		（	回	）	ム	ウ	ハ	ム	ム	ダ	ン	モ	バ	バ	ム	ム	ハ	シ	ハ
		日	数	）	シ	マ	バ	シ	シ	ラ	メ	イ	ヨ	ト	ト	ト	ト	ト	ト
		数	件		類	類	チ	ガ	シ	シ	シ	ウ	ウ	ウ	ガ	類	類	シ	シ
スピノエース顆水	5	3	3						◎										
ジェイエース溶	1B	14	3							◎									
ダイアジノン乳40	1B	劇	30	2	◎			◎	◎								◎		キ
ダイアジノン粒5	1B	*a	2													◎			ケ
		*b	1													◎			
		30	2																◎
マラソン乳	1B	3	5		◎	◎	◎		◎										
アディオソ乳	3A	3	5		◎			◎											
ガードベイトA粒	3A	*e	5														◎		
アクタラ顆溶	4A	7	3		◎														
アクタラ粒5	4A	*c	1		◎														
ベストガード溶	4A	1	3		◎	◎													
モスピラン顆溶	4A	劇	7	3	◎			◎	◎										
フィールドマストFL*1	4E	3	2					◎	◎	◎	◎	◎	◎						
ディアナSC	5	1	2			◎		◎	◎	◎	◎	◎							
アニキ乳	6	1	3					◎			◎								
アフーム乳	6	3	3			◎		◎	◎					◎					
コルト顆水	9B	1	3		◎														
コテツFL	13	劇	3	2				◎											
アタブロン乳	15	7	2					◎											
カウンター乳	15	7	2							◎									
ハチハチFL	21A	劇	3	2	◎			◎											
アクセルFL	22B	1	2					◎	◎	◎									
フェニックス顆水	28	1	2					◎	◎	◎									
プレバソンFL5	28	*d	1	☆				◎	◎		◎								
		1	3					◎	◎		◎								
ベリマークSC	28	*d	1	☆				◎	◎		◎								
ウララDF	29	14	2		◎														
グレーシア乳*1	30	7	2			◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
プロフレアSC*1	30	1	3					◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ファインセーブFL	34	劇	3	2		◎		◎	◎										
プレオFL	UN	3	2					◎		◎	◎								
アベイル粒	4A・28	*d	1						◎		◎								
ミネクトデュオ粒	4A・28	*c	1		◎			◎											

*1:「はなやさい類」での登録

*a:播種時又は定植時 *b:定植時 *c:育苗期後半

*d:育苗期後半～定植当日 *e:生育初期

ケ:ケラ

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき					—						
	黒腐病			—	—	—						
	夏まき (秋どり)							—	—	—	—	—
	黒腐病							—	—	—	—	—
虫 害	コナガ			—	—	—	—			—	—	—
	アオムシ			—	—	—	—			—	—	—
	ヨトウムシ				—	—	—			—	—	—
	アブラムシ類		—	—	—	—	—			—	—	—

作 型 一 ; 栽培期 一 ; 収穫期
病害虫発生消長 一 ; 発生期 一 ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクル粉剤 全面土壌混和 30kg/10 a 作条土壌混和 20kg/10 a ネビジン粉剤 全面土壌混和 20~30kg/10 a 作条土壌混和 20kg/10 a フロンサイド粉剤 全面土壌混和 30~40kg/10 a 作条土壌混和 15~20kg/10 a 	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培した畑で、秋も連作すると多発しやすい。トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10~15cmの土壌と十分に混合する。
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は根、特にこぶを圃場に残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣はていねいに処分し、畑にすきこまない。 	
根朽病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壌伝染をする。 秋穫りの幼苗期~生育中期にかけて発生が多い。強風は本病の発生を助長する。
	定植時	<ul style="list-style-type: none"> 植え傷み、特に地際部に傷をつけないよう注意する。 	
	育苗期~生育期	<ol style="list-style-type: none"> 発病株は早めに処分する。 次の薬剤を散布する。 アフェットフロアブル 2000倍 	
苗立枯病	播種前および播種時	<ol style="list-style-type: none"> 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。

カリフラワー(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科作物に発生し、土壤伝染する細菌病の一種。 5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。とくに台風などによる強い風雨は、茎葉に傷をつけるため本病の発生を助長する。
	生育期	1.病原菌は害虫の食害痕などから侵入するので、害虫の防除を徹底する。	
アブラムシ類	生育期 収穫14日前まで 収穫3日前まで	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000倍 アディオン乳剤 2000～3000倍	
アオムシ	生育期 収穫3日前まで 発生初期(但し、収穫前日まで)	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アフファーム乳剤1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録
コナガ	準備期 生育期 収穫3日前まで 発生初期(但し、収穫前日まで)	1. 広範な地域にコナガコンロを使用する場合。ハウス内の天井に近い位置に固定する。ハウス:100～400m/10a(100mリール)。株上に沿い、作物上に支柱を用いて固定する。露地:100～110m(100mリール)。適当な長さの支柱等に取り付け、圃場に配置する。露地:200本/10a(20cmチューブ)。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤5000倍 アディオン乳剤 2000倍 アフファーム乳剤 1000～2000倍 コテツフロアブル2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍	発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には芯葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。 ◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。 *野菜類での登録

カリフラワー（野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる）

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	幼苗期生育 初期 発生初期 (但し、収穫 前日まで) 収穫前日ま で	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍	夏が高湿乾燥のとき に多発する傾向があ り、8月上旬以降急増 する。生育初期の加害 では芯止まりとなる。 *野菜類での登録
ヨトウム シ	生育期 収穫14日前 まで 発生初期 (但し、収穫 前日まで)	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団 で見つけ次第捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいづれ かを散布する。 ジェイエース水溶剤 1000倍 エスマルクDF* 1000倍	5～6月と9～10月の 2回発生する。 若齢期は葉裏に集団 で生息し、表皮を残し 葉肉をかすり状に食害 する。このような食痕 を発見したら、薬剤を 葉裏に丁寧に散布す る。老熟幼虫は薬剤が 効きにくい。 *野菜類での登録
ハスモン ヨトウ	加害成虫産 卵期幼虫孵 化期後 成虫発生初 期～発生終 期まで 発生初期 (但し、収穫 前日まで) 収穫7日前 まで 収穫前日ま で	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団 で見つけ次第捕殺する。 2. フェロディンSL*1を使用する 場合。2～4個/ha。トラップ1あた り1個を取付けて配置する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいづれ かを散布する。 エコマスターBT*2 1000倍 グレーシア乳剤 2000～3000倍*3 プレバソンフロアブル5 2000倍	春から初冬まで数回 の発生をするが、多く なるのは8月下旬から である。 *1アブラナ科野菜での 登録。雄成虫の誘因 (大量誘殺)が目的。使 用に当たっては、「昆 虫フェロモンを用いた 防除資材」の項参照。 *2野菜類での登録 *3はなやさい類での登 録
ネキリム シ類	生育初期	1. 被害のあった株元の土を調べ、 幼虫を捕殺する。 2. 次の薬剤を株元に施用する。 ガードベイトA(粒) 3kg/10a	幼虫は夜行性で昼間は 浅い土中などに潜む。